

学校だより

7月号

港区立白金小学校

発行人 吉野 達雄

令和二年 六月三十日



夏の過ごし方を前向きに考える

校長 吉野 達雄

毎年、六月には鎌倉に紫陽花を見に行っています。紫陽花の咲き始めはクリーム色ですが、そのあと水色、青、青紫、赤紫など咲き終わりまで様々な色が楽しめます。梅雨の時期ですが色とりどりの花々に心が癒されます。残念ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響でまだ見に行けていません。紫陽花の花言葉は、小さい花が集まっている様子から「一家団欒」。いい花言葉ですね。自粛の中、家で過ごすことが多くなっている今、家族の結び付きも強くなったのではないのでしょうか。

七月になりました。昔の暦、いわゆる旧暦では六月(今の七月頃)は晩夏にあたり、そろそろ秋の足音が聞こえてくる時期と言われています。しかし、実際は、これからが夏本番です。マスクをしている今、例年以上に熱中症に注意しなくてはなりません。夏の楽しみであった水泳の時間も新型コロナウイルス感染症拡大防止のためになくなりました。暑さをしのぐためには、さらに家にいる時間が増えるかもしれませんので、夏の過ごし方を考えましょう。

【涼しい家の中でどのように運動をするか】

休校期間中に教員による運動動画を配信していました。柔軟性を高めよう、バランス力を高めよう、みんなでダンス、けん玉やお手玉、みなさんはやってみましたか?このような動画を今後も発信していきます。夏の過ごし方の参考にしてください。

【ICTを活用した生活】

5・6年生がチームスを使ったオンライン朝の会を試行しました。直接顔を合わせて会話したり遊んだりするのが一番だと思いますが、今の時期は、ICTを活用したコミュニケーションを積極的に取り入れてもよいのではないのでしょうか。また、インターネット上ですが、紫陽花を見たり旅行に行ったりすることもできます。疑似体験ですが、世界中の様々な絶景を味わうことができます。適切な使い方を含めた情報モラルをしつかり守りながらですが、夏の過ごし方の一つにしてはいかがでしょうか。

お礼

分散登校中は、教室の消毒作業において、多くの保護者の皆様に協力していただき感謝申し上げます。引き続き、学校では子供たちの安全確保に努めてまいります。

水難事故防止に向けて

体育主任 小野澤 翔太

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、水泳の学習は行えません。しかし水難事故等の防止の観点から、安全確保につながる動きや心得などについて、学校の方で学習をします。水難事故とは、海、河川、湖沼、プールなどの水域で起こる事故のことで、命にかかわる重大な事故につながる可能性が高いものです。「水難事故なんて他人事」などと思わず、「水辺はとても危険な場所である」ということを子供たちが認識できるように学校で指導していきます。保護者の皆様には、以下の点についてご協力をお願いいたします。

・水辺に出かけるときは必ず子供から目を離さないでください。子供の水難事故の多くは、保護者がほんのちよっと目を離れた際に溺れていたというケースが多いようです。

・万一の場合を想定して、水辺で遊ぶ際には、子供にはライフジャケットを着用させてください。ライフジャケットの有無で、命が助かる確率が大きく違ってきます。

水辺はとても楽しい場所ですが、一歩間違つと危険な場所にも変わります。それぞれの場所のルールやマナーを守り、安全に気をつけて遊ぶことができます。子供たちを育ていけるようにしていきます。